

## 日本・ベトナム環境ウィーク in ハノイ

2019年 特別号



平成31年1月9、10、11日、日本国環境省、ベトナム国資源環境省の主催による日本・ベトナム環境ウィーク in ハノイに一般社団法人日本RPF工業会として参加いたしました。

日本側は環境省勝俣政務官をはじめ地球環境局国際連携課国際協力・環境インフラ戦略室の杉本室長、職員の方々が来られておりました。

環境省ホームページに詳細説明されております。

<https://www.env.go.jp/press/105573-print.html>

## 今回の「日本・ベトナム環境ウィークインハノイ」の参加に当たって

(一社)日本RPF工業会として進めていた新規需要開拓と海外技能実習機構の申請を鑑み、海外国においての当会の紹介とRPFの理解を高めることを目的に総務・広報委員会が担当し、会員企業様の協力下実施して参りました。

1月10, 11日両日でパネル展示ブースを設けて、訪問者への説明を行ないました。



1)、当会のPR用DVD (ベトナム語吹替え版) の上映

2)、当会HP内資料をベトナム語に翻訳、RPF利用事例フロー図を配布

3)、RPF製造設備参考パンフレット等

今回のセミナー参加者数は両国で350名、ベトナム側が250名の来場者があ

り、

日本の環境技術、インフラ投資、政策への感心と期待の高さを伺えました。

パネル展示についてはベトナムの方々理解して頂けるように全ての展示物、配布資料をベトナム語に翻訳し作成いたしました。(賛助会員：神鋼商事株式会社作成)

お陰様で100部用意した資料も無くなってしまう盛況振りでした。来場者からの質問にも通訳者が2名おり、丁寧に対応させて頂きました。



《ベトナム国環境総局副局長  
ホアン・バン・トゥック様が  
当会ブース前でメディア取材  
を行なっていました》

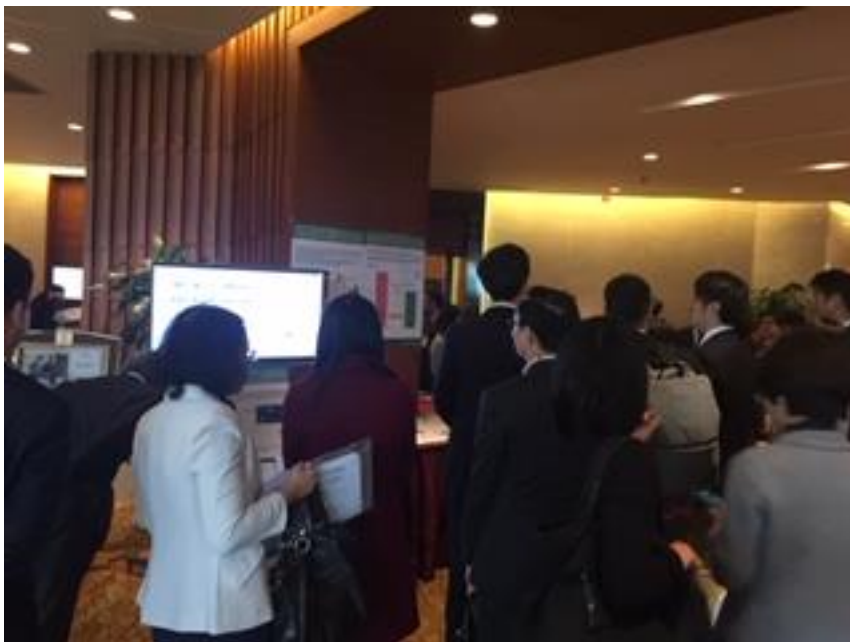
JIS化されたRPFへの理解と  
同国での規制基準作りがスムーズ  
に進展することを期待します。

特に来場者の多くは、各省の環境担当者や行政機関、コンサル業者の方や民間等廃棄物処理業者、木質ペレット製造者、蒸気供給会社の方と多岐に渡りました。

質問内容についてはR P Fが、廃棄物から出来ていることに驚いていたこととR P Fを燃料として使用した際に排ガス中の有害物質について聞かれることがありました。ベトナムでは急激な経済発展に伴い、大気汚染、水質悪化、廃棄物増大への対応が遅れ人々の生活を脅かしている状況で緊急の対策が求められています。

主力燃料は石炭が使用され代替燃料としてR P Fの需要はあるものの適合する燃焼装置があるのか不安があります。排ガス対策として燃焼温度が850度、2秒間の滞留時間を維持し排ガス浄化装置が必要等の説明を致しました。日本での普及でもR P Fを燃焼できるボイラーの導入から進めていきました。同様のプロセスが必要であり、日本のJ I S規格に似た同国の規格や環境基準を整備して行くことになりそうです。又、値段については石炭と遜色ない程度としました。実際、使用するに当たってはボイラースペック、荷受施設、輸送手段と条件によって変動することを説明しました。次にビジネスマッチングの時間を設定して頂いていましたが1社のみでの訪問でR P Fのスペックを気にしておりました。

今後、R P Fに興味を持っていただいた場合は、現地窓口としてコベルコトレーディングベトナム社を通じて工業会事務局に連絡が入る体制と致しました。



今回の環境セミナー参加に際し、(一社)海外環境協力センター様にご相談、ご協力仰ぎながら無事に開催できましたことに改めて感謝いたします。

又、日本ウエスト三上常務、オガワエコノス小川取締役、岡顧問、神鋼商事小川様をはじめ現地法人コベルコトレーディングベトナム社スタッフの皆様のお力添えを頂きR P Fの普及活動が行えたことに感謝いたします。今後R P Fの技術でベトナムの諸々の環境問題や課題の解決の一助になることを期待したところです。



## 《ベトナムでRPFを製造 DECOS社訪問》

次に1月12日には、ベトナム国ハノイ近郊でRPF製造・販売を事業化されているDECOS社を訪問し、ベトナムでのRPF製造の実態をご教授して戴きました。DECOS社は市川環境エンジニアリング株式会社（IKE社）とURECO11の合弁会社で2016年設立されました。

2010年から現地に入り、RPF事業化の調査に始まりURECO11社と出会い需要家を見つけて今日に至るまで海外事業でのご苦労は並大抵ではなかったと思います。需要家を見つけても特別市や省により規制が違い、その度に申請し、許可をもらうようです。未だRPF規格化できていないことから今回のセミナーで進展することを期待します。



当日は残念なことに計画停電で設備は稼動していませんでした。電力供給は不安定で当日朝に停電の連絡が来ることもあるようです。

プラはパルパー滓で含水率が高く脱水機（小熊鉄工所製）で水分を除きRPF化していました。それ以外にも産廃系プラを破碎し固化後、再破碎しフラフ燃料として供給する需要家もあるようです。

生産量については月産約300トンで、廃プラの処理費はトン2千円以上はもらえず、良品は有価買取になってしまうようです。RPFの売値は5～7千円のように。大変お忙しい中、早川部長様、石塚様には見学する機会を設けて頂きまして誠に有難うございました。

《参考情報》；環境省HPより海外支援事業に関する情報が提供されております。

[http://www.env.go.jp/recycle/circul/venous\\_industry/information/vietnam.html](http://www.env.go.jp/recycle/circul/venous_industry/information/vietnam.html)